



福島第一原子力発電所の事故は、国民の心にそして日本の経済に大きな傷跡を残しました。放射能の影響が長く尾を引くだけに、簡単に事故の幕引きをして、次の段階に移ることはできません。

先日、浜岡原発を停止した中部電力(株)の社員が二度にわたって状況説明のため市役所を訪れました。「原発停止のため、毎日7億円の燃料費高騰となる」「津波対策のために約1千億円の費用をあてる」という内容でした。わたしからは、「そのような多額のお金をかけて、もし原発の再稼働が認められなかったらすべて無駄になるので、そのお金を新しいエネルギー普及のために使うほうがよいのではないか」と提案しました。

確かに、中部電力にとって

は、原発を止めることによって大きなコストアップとなることは事実ですが、一方、国からは多額の交付金などが原発の周辺自治体へ回っています。これら交付金も、国民から見れば電気料金の支払いと同じく自分の財布から出て行くお金に変わりありません。

電力会社にとっては、原発の稼働は見かけ上はコストダウンですが、たまり続けている使用済み核燃料の処理のためにいくらかかるのか予想もできません。フィンランドの地下深くに使用済み核燃料を埋設する計画があり、モンゴルの草原の地下を利用する話も出ています。しかし、10万年もの永い年月を要して、やっとなしものになるということなどを考慮すると、ちょっと首をかしげざるを得ませ

んし、その処理コストはまた膨大なものとなるでしょう。今回のような原発事故がひとたび起きれば、あの優良大会社の東京電力でさえ倒産の危機に直面することになります。原発に反対というような議論ではなく、純粹に中部電力のことを考えると、ピンチをチャンスに変える良い機会ではないかと感じます。「幸い、他の電力会社と違って、中電の原発は浜岡だけなので、わたしが中電の社長なら、方針転換します」などと大きなことを言っていました。

世界には良い例があります。世界の環境首都と呼ばれるドイツのフライブルグは原発計画をきつかけとして、自然エネルギーを徹底的に利用する態勢や環境を大事にする方策をとり続けてきました。そうすることによって新たな産業、新たな雇用を生み出して、繁栄しています。

日本では、これまでは時間雨量が100ミリを超えるとというようなことは少なかったのに、最近では簡単に100ミリを超えてしまいます。自然環境のことを本気で考えるときが来ていると思います。



東日本大震災に思う

『根拠のない思い込みや偏見で差別することは人権侵害につながります。震災に遭った人が、避難先で差別を受けたら、どんな気持ちになるでしょうか。相手の気持ちを考え、やさしさを忘れず、みんなでの困難を乗り越えていきましょう。』（法務省ホームページ、放射線被ばくについての風評被害に関する緊急メッセージより一部抜粋）

去る3月11日、東日本を襲った未曾有の大地震は多くの犠牲者を出し、甚大な被害をもたらしました。また、この地震の影響で起きた福島第一原子力発電所での事故により放射性物質が放出され、近隣のみなさんは住み慣れた故郷であっても、立入り区域を規

制されるなど、今なお不自由な生活を強いられています。

一部報道などでは、原発事故のあった福島からの避難者だと分かると宿泊を断られたり、駐車を拒否されたり、小学生が避難先の小学校でいじめられたなど、さまざま心痛い話も見聞きました。放射能の影響を心配するあまり、根拠のない思い込みや偏見で差別することは人権侵害につながります。自分にとって悪気のない安全を守るための行動であっても、地震により心身に大きな傷を抱えてきた避難者のみなさんが、避難先でこのような差別を受けたらどんな気持ちになるでしょうか。

日々の生活の中で、差別やいじめを自分の問題として考えることは難しいことだと思えます。しかし、今回のように自分と関わりのある問題に直面したときにこそ、自分がどう行動するかで、真に人権意識が備わっているかが問われるのではないのでしょうか？

発生から半年が過ぎようとしています。被災地の一日も早い復旧・復興を願っています。がんばろう東北！がんばろう日本！！